



令和4年度

まちづくり交流会の開催報告

道内市町村職員向けに、「まちづくり交流会」をオンライン (Zoom) で開催しました。

「北の住まいるタウン」の実現に向けた2つのテーマを設け、第一線でそのテーマに取り組む講師陣から、課題解決につながる実践的なノウハウを学びました。その後、ブレイクアウトルームに分かれ、講師への質問や相談を通じてテーマへの理解を深めました。

- 日時** 令和5年
2月15日(水)
テーマ① 10:00~12:00
テーマ② 14:00~16:00
- 参加者** テーマ① 20名
 テーマ② 13名

テーマ① 未来技術を活用した暮らしやすさの向上

●講師1・川村 秀憲氏

北海道大学大学院情報科学研究院教授

「まちづくりにおけるAIやICTなど、未来技術の活用と可能性を知ろう！」

●講師2・鈴木 聡士氏

北海学園大学工学部 教授

「北海道内の地域交通施策とAIやICT活用の可能性を知ろう！」

テーマ② 地域資源を活かした脱炭素なまちづくり

●講師3・小高 大輔氏

環境省 北海道地方環境事務所

「ゼロカーボン施策の動向や支援策、地域の事例を知ろう！」

●講師4・大友 詔雄氏

株式会社 NERC 代表取締役

「市町村におけるエネルギー施策の可能性や実践のポイントを知ろう！」

北の住まいるタウン 第一線で活躍する講師陣からまちづくりの最新情報とノウハウを学び、みんなで交流しよう

まちづくり交流会

北海道では、人口減少・高齢化や広域分散型都市構造などの課題に対し、北海道の豊かさを活かして、地域特性に応じて、暮らしの豊かさを高めようとする、安全・安心なまちづくり、資源・エネルギー循環が人々の暮らしを支える「北の住まいるタウン」の実現に向けた2つのテーマを設け、講師陣でそのテーマに取り組む行政職員、民間事業者、学識経験者の方々の課題解決につながる実践的なノウハウを学び、講師や他の参加者との意見交換を通じてテーマへの理解を深めます。

日時：2023年2月15日(水) 10:00~ / 14:00~ **参加費**：無料
定員：各テーマ20人(先着順) **場所**：オンライン(Zoom)で開催

選べる受講テーマ①/テーマ②/両方受講/のいずれかを選んでお申込みください

テーマ① 時間10:00~12:00	テーマ② 時間14:00~16:00
未来技術を活用した暮らしやすさの向上 川村 秀憲氏 (北海道大学大学院情報科学研究院教授) 鈴木 聡士氏 (北海学園大学工学部教授) <講演内容> まちづくりにおけるAIやICTなど、未来技術の活用と可能性を知ろう！	地域資源を活かした脱炭素なまちづくり 小高 大輔氏 (環境省北海道地方環境事務所) 大友 詔雄氏 (株式会社NERC代表取締役) <講演内容> ゼロカーボン施策の動向や支援策、地域の事例を知ろう！

未来技術の活用で地域の課題を解決したいと思う人、地域の資源を活用してゼロカーボンを進めたいと思う人

両者の申込事項を申込フォームまたはメールに記載の上お申込みください

主催：北海道(建設部 建設政策局 建設政策課) 運営：「北の住まいるタウン」に係る普及啓発業務(実行事業者) 株式会社石塚設計デザイン事務所

●テーマ1 未来技術を活用した暮らしやすさの向上

「まちづくりにおけるAIやICTなど、未来技術の活用と可能性を知ろう！」

AIについてエポックメイキング的なことは3つあり、イラストを作るAI、テキストを生成するAI、作業ロボットです。イラストは言葉の指示により作成しプロ並み、無料公開のソースコードが世界中で利用されています。ChatGPTは

問いかけに対してテキストで返答し、雑用をこなすロボットは曖昧な指示にも対応できるようになってきました。ただAIは最適化の技術であり、複数目的が絡み多様な価値観の中では人間の判断が求められます。我々は進化したテクノロジーを前提に、何に価値を見出すか、社会のあり方を再定義していく必要があります。



講師の川村氏

テキストから画像を作成するAI Midjourney

https://www.midjourney.com/home/
 月のよみ影に載っている半翼飛行士 瓶の中にいる青い蝶

南の島にいるロボット、造陸機

このような画像が簡単な言葉の指示で無数に作成できる。有料サービスとしてだれでも利用可能。

同様の技術のStable Diffusionはソフトウェア自体も無料で公開、技術の振興に目を奪われるものがあり、人の仕事のあり方に衝撃を与えた。

4 Copyright © 2023 株式会社石塚設計デザイン事務所 北海道大学 大学院情報科学研究院 情報教育研究センター 普及啓発業務課 All rights reserved. harmo-lab

テキストから画像を作成するAI

「北海道内の地域交通施策と AI や ICT 活用の可能性を知らう！」

北海道は広域分散型の都市構造を持ち、人手不足・ドライバー不足も深刻です。今後、自動運転、ETC2.0、AI、ドローン等の新たな技術とインフラ整備の連動、デジタル技術の導入による道路などの整備や維持管理の省力化・効率化など ICT を活用した交通や物流のマネジメントの高度化が期待されています。道内でも、地域事業者と連携して運賃無料の収益循環モデルを目指す江差 MaaS や、最適経路をリアルタイムで算出する AI デマンドバスの網走市「どこバス」などの取組が行われています。



講師の鈴木氏



江差MaaSの取組

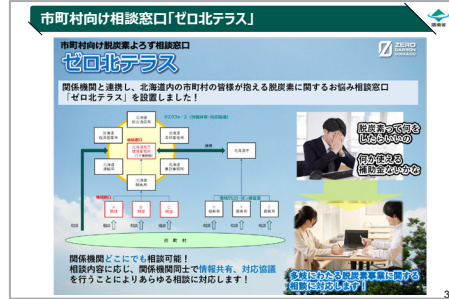
●テーマ2 地域資源を活かした脱炭素なまちづくり

「ゼロカーボン施策の動向や支援策、地域の事例を知らう！」

地域循環共生圏（ローカル SDGs）とは、第5次環境基本計画で提唱された概念で、自立分散型の地域が有機的に結びついた持続可能な社会です。地域資源を活用し、また事業を持続し地域に利益をもたらしていく



講師の小高氏

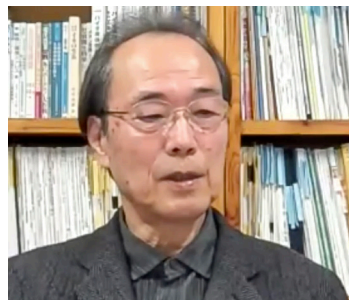


市町村向け相談窓口「ゼロ北テラス」の案内

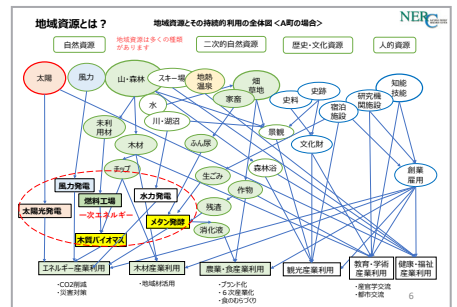
ためにも、地域の主体性や協働が重要になります。脱炭素のまちづくりを進めるために、市町村向けよろず相談窓口「ゼロ北テラス」や、補助金探しに役立つ「ゼロ北ハンドブック」、公募情報などをタイムリーに配信する「ゼロ北メーリス」などをぜひご活用ください。

「市町村におけるエネルギー施策の可能性や実践のポイントを知らう！」

再生可能エネルギーは、その地域にどのような地域資源があるかを明らかにすることが出発点であり、またそれをどのような技術でエネルギーに変えるかが重要です。例えば太陽エネルギーは広大な利用分野があり、太陽光発電は様々な人工構造物の上に設置することができ、パネルのエネルギーへの変換効率も上がり、設置コストは下がってきています。その他バイオマス、廃棄物を資源として活かす、水素利用など様々な可能性がありますが、地域内経済循環が重要であり、また地域資源に基づけばどこでもカーボンゼロは可能になります。



講師の友友氏



地域資源とその持続的利用の全体図

交流・相談タイム

「道内で AI など未来技術活用を推進する民間事業者は？」「自動運転バスの一般道への普及はいつごろになるか」「古い公営住宅に脱炭素を取り入れる改修方法を教えて欲しい」「水産関係の廃棄物もエネルギーにできるか」など、参加者から講師に自分のまちのお悩みごと相談や質問がたくさん寄せられました。

「北の住まいるタウン」の取組の内容についてまとめたガイドブックをWEBでご紹介しています



発行：北海道（建設部 建設政策局 建設政策課）電話 011-204-5284（担当：内山）

編集：「北の住まいるタウンに係る普及啓発業務」受託事業者：株式会社石塚計画デザイン事務所

http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kn/kks/kitasuma_top.htm

2023年3月発行



facebookページもご覧ください
「北の住まいるタウン」